

# 見逃せないQLEDモデル 映像も機能も進化

画質から機能性まで、ブラッシュアップされたTCLの4K液晶テレビ群。VGP2022 SUMMERでは、同社のQLEDモデルが評価され、優秀賞の獲得に繋がりました。本稿では、コスパ大賞、そして部門金賞を受賞したモデル群の魅力のプロの視点から語ります。

## TCL 4K液晶テレビ C735 シリーズ

SPEC [65C735] ●画素数:3840×2160 ●接続端子:  
HDMI入力×3、光デジタル音声出力×1、USB入力×2、  
LAN×1 ●外形寸法:1446W×895H×314Dmm ●質量:  
19.3kg



コスパ大賞

【受賞モデル一覧】



4K液晶テレビ(65型以上70型未満)

65C735

4K液晶テレビ(55型以上60型未満)

55C735



金賞

4K液晶テレビ  
(45型未満)

4K液晶テレビ

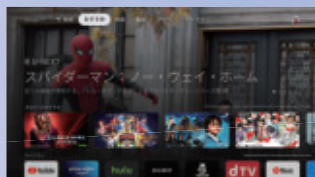
## 43C635

¥OPEN

SPEC ●画素数:3840×2160 ●接続端子:HDMI入力×2、光デジタル音声出力×1、  
USB×1、LAN×1 ●外形寸法:958W×608H×254Dmm ●質量:7.9kg

### POINT

直径2～10nm(ナノメートル)サイズの半導体微粒子を活用した量子ドットフィルムをすることで、青色LEDバックライトの色の波長を効率よく変換し、従来モデルよりも色純度の高く、色域の広い映像再現を実現するQLED技術を採用。



Google TVによって、YouTubeやNETFLIX、Amazon Prime Videoやディズニープラスなど幅広い動画配信サービスを視聴でき、好きな作品も簡単に横断検索できます。



立体音響技術のドルビーアトモスに対応。平面だけでなく高さ方向のサウンドも表現することで、映像コンテンツをより没入感の高い音場表現とともに楽しめます。

### CHECK



企画賞

### ハイエンドに採用 新たな映像エンジン

TCLのハイエンドモデル「C835シリーズ」で採用されている高画質映像エンジン「AlgoエンジンMAX」が企画賞を獲得。C735シリーズには「AlgoエンジンPro」、C635シリーズには「Algoエンジン」を搭載し、映像の傾向を高いレベルで統一しています。



### 抜群の機能性を持ち合わせ 映像の再現力も着実にアップ

VGP審査員長 大橋伸太郎

動画配信サービスの普及、放送番組の見逃し配信など、テレビ視聴の方法が大きく変化した昨今、目が離せないテレビブランドのひとつがTCLです。2022年に登場したTCLの4Kテレビは、同社が誇る色再現性を高める量子ドットLED技術「QLED」を採用し、さらにGoogle TV機能を搭載することで各段にユーザービリティを高めたモデルに注目です。「C735シリーズ」は、さらに新開発の映像エンジン「AlgoエンジンPro」を搭載したこと、加えて120Hzの倍速駆動への対応など、着実に画質をアップさせており、機能性の高さと画質の追求が高く評価され、映像音響部会でコスパ大賞に輝きました。同じく新開発の「Algoエンジン」を投入した「43C635」は、部門金賞を獲得。また、TCLの2022年モデルは立体音響技術のドルビーアトモスに対応しており、音質面も高めています。このように実力派モデルが多数ラインアップされていることが、TCLならではの強みです。実際に各モデルを視聴してみると、「65C735」は、AlgoエンジンProの効果が大きく、制御範囲を増やしたマイクロミリングが時々刻々と変化する映像の明暗をリアルに再現します。43C635は、解像感や色再現性、輝度表現なども含め、エントリークラスとは思えない完成度を持ち合わせています。手に取りやすい価格帯で、機能からクオリティまで安心感のある4Kテレビを手に入れたいなら、TCLは間違いありません。